

海が青いリズムを刻んで島に押し寄せている。風にも色がついているのがはっきりと見えた。それもブルーだ。波打ち際は砕けた珊瑚のクッションになり、島の輪郭をなしている。そしてブルーが無限に変化するの、沿岸のリーフの内側だ。チカチカと光線を弾くたびに生まれては消えるブルー。同じ色は二度とない。珊瑚のうねりがデリケートな指先で島を支えていた。これがデニスのいる沖縄だ。こんなに小さな島なのに、たくさんの見えない問題が山となって大地に積まれている。

（『レキオス』池上永一）

こんにちは♪ 2年生は修学旅行までもう1ヶ月を切りましたね！ 図書館では、入り口近くの「進路コーナー」の裏側に沖縄の本のコーナーを常設しているのですが、沖縄についてもっと知ってほしいと思い、今号の図書館通信を発行することにしました。沖縄にはたくさんの物語があります。それを知らずに行くのと、知ってから行くのとでは、見える風景が違ってきます。圧倒的に面白い「これぞ、沖縄！」の池上永一の小説を始めとして、沖縄の物語をズラリと紹介します。メンソーレ（いらっしゃい）、沖縄！

星の島・沖縄の物語

『テンペスト』上 うりずん 若夏の巻・下 はなふう 花風の巻 池上永一

「かつてここまで過激でこんなに美しい物語があったらどうか」。まずはこれ！ オキナワン・ファンタジーの第一人者・池上永一の集大成！ 2冊合わせて2段組で853pものボリュームですが、なんのなんのページをめくる手が止まらずあっという間に読めてしまいます！ 仲間由紀恵やGACKTら沖縄出身者が多数出演してTVドラマ化、映画化もされました。舞台は19世紀の琉球王国。なんとあの首里城（“竜の棲む城”）が舞台となります。逃げ出した兄の命を助けるために、美しき天才少女・真鶴は性を偽り、宦官・孫寧温 そんねいおん として、究極の官僚試験・科試 こうし を受けるが、所持していた禁書が見つかり、父がその罪を被り死罪となってしまう。父は寧温が滅びた前王朝の血をひいていることを明かし、正統性を示す勾玉のありかを告げる。寧温は最年少の13歳で見事試験に合格し、王宮に勤めることになり、女形 おやま となって舞う兄と再会する…。怒濤のクライマックスに継ぐクライマックス！ タイトルの「テンペスト」は嵐のことで、まさに嵐のような物語です。「珊瑚礁の王国に龍の眠る巣がある」。

『黙示録』 池上永一

爛熟期を迎える 18 世紀前半の琉球王国。那覇ではこの数年、空が晴れずにいた。母親が天刑病になり、最下層の村からも追われた蘇了泉は、芸人の一座に拾われるが、花形・金松が演技に失敗して死亡し一座も解散してしまう。盗みをして生きる了泉の前に、踊奉行の石羅吾が現れる。彼は、自分より客の目を集める了泉に嫉妬したから、金松は死んだのだと言う。了泉には人を惹きつける華があるのだと。石羅吾は了泉を舞台へと誘う。了泉が舞うと、雲が割れ、満月の明かりが大地に降り注いだ。3年ぶりに王国に月が現れたのだ。了泉は「月しろ」だった。「太陽しろ」である王子と対になる存在、王国の繁栄の要となる存在である。舞踏家・了泉の物語が始まった…。

『バガージマヌパナス わが島のはなし』 池上永一

「ワジワジー（ムカつく）」が口ぐせの美しい（けれど乱暴な）19才の綾乃。綾乃がくれたルイ・ヴィトンのバッグに日用品すべてを入れている（生魚まで！）86才のオバア、オージャーガンマー。フユクサラー（怠け者）でフラワー（ばか）な2人は大の仲良し。ガジュマルの樹の下で「そんなこともあるさあ」とけらけら笑っています。ところが、神様のお告げで綾乃がユタ（巫女）になるよう命ぜられたから大変。すっとぼけようとしたら神罰が下り観念する綾乃。大騒ぎしながらユタへの道を歩き出します。全編沖縄テイスト満載。底ぬけに明るいシチブーイナグーとフリンバーバー（脳ミソが70パーセントしかない女と頭のヘンな婆さん）の物語。ファンタジーノベルズ大賞受賞のデビュー作！

『あたしのマブイ見ませんでしたか』 池上永一

「チルーはそこでポーポーを買った。一口食べれば一番上等な思い出が蘇える。二口食べれば自信が湧いてくる。食べ終われば昨日の自分と訣別できた」。ポーポーは沖縄のスナック。こちらは短編集。はじめの4つ（半分）が沖縄の物語です。マブイとは魂の意。落としてしまったマブイを女の子が探し求める話（アオブダイと豚の頭とアイスクャンディーとマンドラゴラに入っていると彼女は思う！）、さとうきびの森の前で去年ここを訪れた日本人を待つ女の子（と超マイペースなオバア）の話、ピーフン（魔よけの壁。まっすぐにしか進めないとされる魔物が入ってくるのを防ぐ）と冬の少女の話ほか。ちょっとウルウルーします。

…そのほかにも、オバアの97歳のお祝いとマブイを落とした青年と幽霊と妖怪豚の三角関係『**風車祭**』、混血のドレッドヘアの女子高生が主人公のSF『**レキオス**』など！

『キジムナーkids』 上原正三

ウルトラマンのシナリオライターが少年の視点で書いた、自伝的小説。新しい沖縄小説のスタンダードになることでしょう。キジムナーとは、赤い髪と大きな目をした永遠に子どもの姿のいたずらな沖縄の妖怪で、タイトルはそのキジムナーのような子どもたちという意味です。戦争が終わり、疎開先の熊本からボクは帰ってきた。故郷はまったく姿を変えていて、まるで戦場だった。ボクは土に半分埋まった鉄兜から黒髪がはみ出しているのを見てゲーゲー吐き、鉄兜に黒髪の兵隊が訪れる夢を見てうなされる。学校では、ハブジローを頭にした3人の悪童と仲よしになり、やがてガジュマルの樹のうえに板を渡して秘密基地“キジムナーハウス”をつくり、米軍から略奪する拠点とするのだった。グラマン戦闘機の機銃掃射で母と兄と右手を同時に失ったポーポー。みなが集団自決した村で生き残り、言葉をなくしたベグア。誰もが傷を負っているのに、明るかった…。「見回すと、みんな大変な思いをした人ばかりだ。生きることが不思議な人だらけだ。だけどなぜか明るい。悲しいから笑顔をつくるのか、嬉しいから笑顔になるのかわからない」。

『なんくるない』 よしもとばなな

なんてことないよ。どうにかなるさ、大丈夫。こう言ってほしくて、本土の人々はあんなにも沖縄を訪れるのかもしれない。すっかり沖縄フリークになったよしもとばななが、沖縄への愛情と感謝の気持ちをいっぱいにつめこんだ小説集。「いつでも、来るたびに私にこんなすばらしいことをしてくれる沖縄になにを返せるだろう、と私は思った。／だって私はただ、観光客としてやってきて、力をもらうだけもらって帰っていかようとしているのに。／なのにもう着いたとたんいきなり、沖縄は私にたくさんの光を注いでくれていた」。「きれいなありがたいの足跡」。

『カフーを待ちわびて』 原田マハ

いまはアート小説の第一人者として活躍する原田マハさんの、映画化もされた、デビュー作。カフーとは「果報」、「いい報せ」と「幸せ」の2つの意味です。また主人公のパートナーのラブラドルの名前でもあります。沖縄の小さな島でひとり暮らす明青のもとに、ナイチャーのとんでもない美らさんがやってきた！かつて北陸の遠久島を訪れたとき、心中で有名な飛泡神社で、明青は絵馬に「嫁に来ないか。幸せにします」と書いて住所と名前を添えた。なんとその言葉が本当ならお嫁さんにしてくれますかと来たのだというのだ…。やさしくてせつない純愛物語。

『太陽の子』 灰谷健次郎

「沖縄はかなしい話ばかりやあらへんで」。ふうちゃんのお母さんとお父さんは沖縄出身で、神戸で琉球料理の店「てだのふあ（太陽の子）おきなわ亭」を営んでいます。ふうちゃんはお店に集まる沖縄の人たちを、やさしくていい人たちだなあと感じています。ふうちゃんは沖縄を誇りにしている彼らのかなしみの原因も沖縄にあることに気づきます。お父さんの心の傷の原因も。ふうちゃんは沖縄についてもっと知りたいと思います。「沖縄を知るということは、ただ沖縄を知るというだけの話やない。沖縄を知るためには、ずいぶん悲しい思いもしなくてはならないし、恐いことにも耐えなくてはならんのだよ」。

『はるかニライ・カナイ』 灰谷健次郎

沖縄で暮らすケイの一家のもとに中学3年生の女の子が預けられることになった。裕子という名前で、イジメにあい学校に行けなくなってしまったのだという。初対面なのに家族のように受け入れてくれる人々、蝶や小鳥や花たちに囲まれて、裕子は変わります。「この島は、人も、生きものも、みな仲がいいんですね」。台風で壊滅的な被害を受けても何でもないような顔をし、お米がなくなりかけても観光客の分を心配する島の人々。その強さとやさしさ。すっかり元気になった裕子は、島の人々の明るさとやさしさの陰に、戦争の深い傷跡があることに気づきます。

『白旗の少女』 ^{しらはた}比嘉 ^{ひが}富子

白い旗を掲げて、たった一人でアメリカ軍に投降する7歳の少女。世界中で紹介されたこの写真の少女が記したのがこの本。太平洋戦争における唯一の地上戦が行われた沖縄。文字どおり本土の盾にされ10万人もの民間人が殺されました。家族とはぐれ、ガマ（自然の洞穴）からガマへと逃げまどう少女。絶望してガマごと自決をはかるような地獄絵図の中で、彼女はガマでひっそり暮らす老夫婦と出会います。おじいさんは両手両足がなく、おばあさんは目がほとんど見えません。二人に助けられた少女は…。

『南の島の星の砂』 COCCO

「洗いたての東の空に ポカポカのお日様が生まれる頃 星は島の岸辺に打ち上げられていました。星の砂で彩られた小さな島はまるで宝石箱のよう」COCCOのふるさと沖縄への愛情がいっぱいにつまった絵本。星の島の物語。黒地に色彩が氾濫する。

————— 沖縄に「萌えて」ください！ では、図書館で。ハイサイ！

